

令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年1月28日（水）13:30～15:00

2 会場

岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科実習室

3 出席者

[学校運営協議会委員]

海邊 健二 委員 佐藤 巧 委員 昆 正 委員 藤田 康悦 委員
川村 由佳 委員 小宮山 久美子 委員 山本 講治郎 委員 八木 稔和 委員
市丸 成彦（副校長） 河野 裕（総務主任）

[学校教職員]

校長、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、農場長

4 会議内容

(1) 開会のことば

(2) 校長あいさつ

学校運営協議会委員の皆様、日頃より、本校教育活動に対する深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本日は、今年度2回目の学校運営協議会であり、一年間の教育活動を振り返りながら総括をするとともに、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、今後の学校運営により一層生かしてまいりたいと考えている。

今年度も生徒たちは各方面で目覚ましい活躍を見せてくれた。本日配布している新聞記事の切り抜きを冊子にした「ヒカリノミチ」をご覧いただきたい。部活動や農業クラブ活動、学科の専攻学習活動をとおり、生徒たちが積極的に校外へ発信し、地域と密接に連携している様子が伝わる内容となっている。令和6年度版と令和7年度版ともに、それぞれ40ページほどになっており、こうした掲載数は、県内高校の中でもトップクラスであると自負している。

また、生徒を日々指導する教職員も、一人ひとりに寄り添いながらチームとして教育活動に取り組んでいる。その成果の一つとして、先般、本校の指導教諭が文部科学大臣表彰を受賞し、東京大学安田講堂で開催された表彰式に出席したところ。

この後、各分掌担当から学校概況について説明があるが、私からは、第1回学校運営協議会でお示した学校経営計画における重点目標の達成状況についてご説明させていただく。

資料3ページ、資料「4 目指す学校像（1）今年度の重点目標」の右側に「達成指標」を示している。重点目標はアからカまでの6項目であり、これに対する、11月実施の学校評価アンケートの結果を申し上げます。

ア「花農に入学してよかった」	: 93.6%（目標 85%以上）
イ「授業が分かる」	: 94.0%（目標 85%以上）
ウ「希望や適性に合った進路指導」	: 97.4%（目標 90%以上）

エ「生徒指導上の問題に適切に対応している」：84.1%（目標 80%以上）

オ「農業クラブ活動が活発である」：93.1%（目標 85%以上）

カ「安心して学校生活を送っている」：92.7%（目標 85%以上）

以上のとおり、すべての項目で目標値を4～9ポイント上回る結果となった。特に、進路指導と農業クラブ活動に関する評価は高い結果となっている。

一方で、少数ではあるが、「そうではない」と感じている生徒がいることも事実である。今後も生徒に寄り添った指導を継続し、さらに魅力ある学校づくりに努めてまいりたい。

次に、大きな課題である生徒募集について、現在の定員充足率は学校全体で66.4%となっており、県平均の76%を下回っている。学科別では、生産科学科74.2%、環境科学科44.2%、食農科学科80.9%であり、環境科学科が50%未満となっている。環境科学科は県内唯一の農業土木、造園を学べる学科であり、公務員や関連企業からの連携・要請の強さからすると、その存在意義は非常に大きいものがある。

また、令和7年度入試においては県立高校59校中48校が定員割れとなっている状況にあるが、本校は入学者数が増加していることから、少子化という社会的背景等を踏まえれば、地域からは本校に対する一定の評価をいただいているものと考ええる。

しかしながら、地域に根ざす農業高校としての責務として考えると、農業教育、そして農業高校の魅力を一層高め、発信していく必要があると強く感じている。

最後に、本校は令和9年度に創立120周年を迎えることから、昨年7月に創立120周年記念事業実行委員会を立ち上げて準備を進めているところ。今後も「花農ブランド」をさらに磨き上げ、次の世代へとつないでいけるよう取り組んでまいりたい。

（3）学校概要について

① 学校評価（総務部）

総務主任から、資料（4～5頁）のとおり説明等

② 学習状況等（教務部）

教務主任から、資料（6頁）のとおり説明等

③ 進路決定状況（進路指導部）

進路指導主事から、資料（7頁）のとおり説明等

④ 部活動の成果（生徒指導部）

生徒指導主事から、資料（8頁）のとおり説明等

⑤ 農業クラブ活動（農場部）

農場長から、資料（9～11頁）のとおり説明等

（4）意見交換

[視点1] 持続可能な社会の創り手、地域や地域産業等を担う人材の育成

[視点2] 本校の「特色化・魅力化」の取組を深化させるために

[視点3] 少子化における入学者数の確保

【委員】

生徒指導部から、生徒の服装規程を見直す取組を進めているとの説明があった。生徒会が中心と

なって服装規程の見直しについて話し合っている取組についても、学校の魅力にしてみてもどうか。

【生徒指導主事 高橋】

服装規程の見直しについては、生徒会と教員が連携して生徒が納得する形となるよう進めているところであるが、地域の高校としてのイメージや進路指導等を多角的に考慮しながら、時間をかけて慎重に検討しているところ。

【委員】

生物科学科で畜産を専攻する生徒たちは「和牛甲子園」に参加しているとのことであるが、花巻農業高校ではどのような牛を出品しているか伺う。

【生徒指導主事 高橋】

本校では、黒毛和牛の肥育牛を出品している。全国から出品される牛は生体のまま東京食肉市場に搬入され、と畜されて審査員に枝肉評価をしてもらう。今年度の本校の出品牛は、枝肉単価で高い評価をいただくことができた。

【委員】

農場の施設設備の老朽化の状況や、修繕等の整備に係る予算の状況を伺う。

【農場長 及川】

農場の施設設備は全体的に老朽化が進行しており、更新等は予算面で難しいことから修繕しながら対応している。スマート農業に対応した施設設備を新規整備することも難しい状況である。

昨年度から国のDX事業に申請して予算を確保しており、昨年度は生物科学科の畜産部門と食農科学科の食品加工部門でデジタル機器を導入して学習を深化させている。今年度は環境科学科の測量部門でトランシット測量機器を導入し、デジタル化に対応した教育を推進している。

また、作物部門はコメでJGAP認証を取得しており、先般、更新審査を完了し、来年度以降も継続してGAP教育を推進することとしている。

【委員】

学校運営計画における重点目標については、学校評価の数値が高く、目標値を達成していることはとても素晴らしい。

進路については県内及び管内への就職が多く、地域の学校として位置づけられていることがわかる。何より、学校評価アンケートの項目「花農に入ってよかった」について高い評価であることに驚きを感じる。

今年度についても、新聞記事集「ヒカリノミチ」によると花農に関する取材記事がたくさんある。地域の学校として生徒たちが活躍している様子を、もっとアピールする場を設けてもよいと思う。

【委員】

学校の特色化・魅力化については、学校評価アンケートの項目「安心して学校生活を送ることができている」の評価が92%と高いことがとても素晴らしい。学校は安心して生活できることが第一であり、教職員の何よりの成果であると思う。

昨年12月、花農の鹿踊部には本中学校の郷土芸能鑑賞公演で演舞していただいた。花農鹿踊り

部には本校卒業生も所属しており、先輩たちの活躍を直に肌で感じられることができ、大変感謝している。

花農の魅力である農産物等を地域住民にさらに発信し、直接触れていただくことは地域の学校としての理解につながるものと思う。

地域の中学校には将来は農業をしたいと考えている生徒がいるので、そのような生徒が入学を希望する学校として、これからも充実した農業教育を推進されることを期待している。

【委員】

花農のインターンシップは、全学科の2年生全員が花巻市近隣の事業所等で実施している。現状は、学科の教育課程の特色を生かしたインターンシップ先限定しているが、近年の花農の就職先は製造業が多くなっていることもあり、農業機械等を学ぶ学科もあることから、インターンシップ先は精密機械分野の製造業等にも拡充してはどうか。

部活動においては、東北大会以上の大会や県外遠征費等の支出が高額で大変な状況のようであるが、今後、生徒数が減少していく中、どのように生徒会予算のバランスをとっていくのか危惧している。

【会長】

11月の花農祭一般公開日に学校を訪問した。小さな子どもも楽しめる文化祭であり、とても好感をもつことができた。また、花農生の丁寧な接客対応は、教職員の指導の賜物であると感じることができた。

学校はどの校種においても、学生集めに苦慮している。そのような中、最近の中学生や高校生等は、教育内容等がわかりやすい学校への進学を希望する傾向にあるように思う。キャリア教育についても、学生は会社のネーミングで選ぶ傾向が顕著であり、多極化しているように感じている。

インターンシップの実施に当たっては、事前に企業見学の機会を増やすことで生徒の職業観を醸成し、企業についての理解を深めさせることで高い効果を得るものとする。

【校長】

本日は、委員の皆様から多角的にご意見等をいただき、今後の教育活動の改善点を見出すことができた。

少子化により全国的に生徒数の減少が著しく、県内の高校においても学校規模の縮小が加速しており、県教育委員会では、昨年11月に第3期県立高等学校再編計画修正案を公表し、学校再編の方向性について具体案を示している。

入学者の確保については学校として様々な取組をしているところであるが、中学生に対して学校の魅力を十分に伝えることが重要であると考えている。

本日は、本校の教育活動について貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。中学生に農業の魅力を伝え、本校を知っていただく重要性を再認識することができた。いただいたご意見等は、本校の教育活動の充実に反映させてまいりたい。

(7) 閉会のことば